

36:1 ヨシヤの子、ユダの王エホヤキムの第四年に、主からエレミヤに次のようなみことばがあった。

36:2 「あなたは巻き物を取り、わたしがあなたに語った日、すなわちヨシヤの時代から今日まで、わたしがイスラエルとユダとすべての国々について、あなたに語ったことばをみな、それに書きしるせ。

36:3 ユダの家は、わたしが彼らに下そうと思っ
ているすべてのわざわいを聞いて、それぞれ悪の道から立ち返るかもしれない。そうすれば、わたしも、彼らの咎と罪とを赦すことができる。」

36:4 それでエレミヤは、ネリヤの子バルクを呼んだ。バルクはエレミヤの口述に従って、彼に語られた主のことばを、ことごとく巻き物に書きしるした。

36:5 そしてエレミヤは、バルクに命じて言った。「私は閉じ込められていて、主の宮に行けない。

36:6 だから、あなたが行って、主の宮で、断食の日に、あなたが私の口述によって巻き物に書きしるした主のことばを、民の耳に読み聞かせ、また町々から来るユダ全体の耳にもそれを読み聞かせよ。

36:7 そうすれば、彼らは主の前に祈願をささげ、それぞれ悪の道から立ち返るかもしれない。主がこの民に語られた怒りと憤りは大きいからである。」

36:8 そこでネリヤの子バルクは、すべて預言者エレミヤが命じたとおりに、主の宮で主のことばの巻き物を読んだ。

36:9 ヨシヤの子、ユダの王エホヤキムの第

五年、第九の月、エルサレムのすべての民と、ユダの町々からエルサレムに来ているすべての民に、主の前での断食が布告された。

36:10 そのとき、バルクは、主の宮の、書記シャファンの子ゲマルヤの部屋で、・・・その部屋は主の宮の新しい門の入口にある上の庭にあった。・・・すべての民に聞こえるように、その書物からエレミヤのことばを読んだ。

36:11 シャファンの子ゲマルヤの子ミカヤは、その書物にあるすべての主のことばを聞き、

36:12 王宮の、書記の部屋に下ったが、ちょうど、そこには、すべての首長たちがすわっていた。すなわち書記エリシャマ、シエマヤの子デラヤ、アクボルの子エルナタン、シャファンの子ゲマルヤ、ハナヌヤの子ゼデキヤ、およびすべての首長たちである。

36:13 ミカヤは、バルクがああ巻き物を民に読んで聞かせたときに聞いたすべてのことばを彼らに告げた。

36:14 すべての首長たちは、バルクのもとにクシの子シェムヤの子ネタヌヤの子エフディを遣わして言わせた。「あなたが民に読んで聞かせたああ巻き物、あれを手に持って来なさい。」そこで、ネリヤの子バルクは、巻き物を手に持って彼らのところにはいつて来た。

36:15 彼らはバルクに言った。「さあ、すわって、私たちにそれを読んで聞かせてくれ。」そこで、バルクは彼らに読んで聞かせた。

36:16 彼らがそのすべてのことばを聞いたとき、みな互いに恐れ、バルクに言った。

「私たちは、これらのことばをみな、必ず王に告げなければならぬ。」

36:17 彼らはバルクに尋ねて言った。

「さあ、どのようにして、あなたはこれらのことばをみな、彼の口から書きとったのか、私たちに教えてくれ。」

36:18 バルクは彼らに言った。「エレミヤがこれらすべてのことばを私に口述し、私が墨でこの巻き物に書きしるしました。」

36:19 すると、首長たちはバルクに言った。「行って、あなたも、エレミヤも身を隠しなさい。だれにも、あなたがたがどこにいるか知られないように。」

ここからは歴史的な記録です。エレミヤは自分が神殿に行けなかったので、バルクに頼みましたが、神のことばはエレミヤ本人がいなくても、このように人を動かす力がありました。神の権威があるからです。私たちも神のみことばの権威を信じて行動しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

